

## 誕生石

島津氏の祖である島津忠久（1179-1227）の生誕地として知られる岩である。島津家の伝説では、忠久の父は後に鎌倉幕府初代将軍となる源頼朝（1147-1199）であるとされている。忠久の母は、武士の娘である丹後局である。頼朝の妻である北条政子（1156-1225）は、夫の浮気が発覚すると、丹後局に罪を着せた。頼朝の子を身ごもっていた丹後局は鎌倉を逃れて最終的に住吉大社に身を寄せた。着いた途端、急に陣痛が始まり、この大きな石にしがみついて、忠久を産んだ。

その後、頼朝は忠久を大隅国と薩摩国（現在の鹿児島県）の総督に任命した。忠久は島津という姓を与えられ、その子孫は 1580 年代の最盛期には九州の大半を支配する一族となった。1602 年、島津家は徳川への忠誠と奉仕を強制されたが、彼らの軍は徳川幕府（1603-1868）を倒し、265 年後に日本で最初の近代国家を確立するのに貢献した。今でも住吉大社には島津家のご先祖様の石を拝むために、鹿児島出身の人々が訪れる。